



政務活動費収支報告書

平成30年4月10日

（あて先）飯能市議会議長

議員氏名 加藤 由貴夫



飯能市議会政務活動費の交付に関する条例第5条第1項の規定に基づき、下記のとおり平成29年度（平成29年5月分～平成30年3月分）の政務活動費収支報告書を提出します。

| | | | | |
|---|-----|-------|---------|---|
| 1 | 収 入 | 政務活動費 | 165,000 | 円 |
| 2 | 支 出 | | 173,552 | 円 |

（単位：円）

| 科 目 | 金 額 | 備 考 |
|-----------------|-----------|-------------------------------|
| 研 修 費 | 86,910 円 | 研修会参加（11月8～10日全国都市問題会議） |
| 調 査 研 究 費 | 86,642 円 | 行政視察（11月15～17日京都府京丹後市・鳥取県智頭町） |
| 資 料 作 成 費 | 0 円 | |
| 資 料 購 入 費 | 0 円 | |
| 広 報 費 | 0 円 | |
| 広 聴 費 | 0 円 | |
| 要 請 ・ 陳 情 活 動 費 | 0 円 | |
| 会 議 費 | 0 円 | |
| 人 件 費 | 0 円 | |
| 事 務 所 費 | 0 円 | |
| そ の 他 の 経 費 | 0 円 | |
| 合 計 | 173,552 円 | |

3 残 額 0 円

- （注）
- 1 備考欄には、支出の内訳を記載すること。
 - 2 領収書その他支出を証する書類の写しを添付すること。
 - 3 政務活動費収支報告書に係る政務活動事業実績報告書を添付すること。

政務活動事業実績報告書

議員氏名 加藤由貴夫

飯能市議会政務活動費の交付に関する規則第5条第2項の規定により、平成29年度5～3月分の政務活動費に係る事業実績報告書を次のとおり提出します。

| 月 日 | 事業名 | 事業概要及び成果等 |
|-------|-------------------------|---|
| 11月9日 | 第79回 全国都市問題会議 一日目 | <p>会場：那覇市沖縄県立武道館</p> <p>- 視察内容 -</p> <p>議題解説</p> <p>ひとつがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略</p> <p>- 新しい風をつかむまちづくり -</p> <p>本格的な超高齢化、人口減少社会が到来する中で、全国の都市においてひとの動きの活発化、その動機や目的の多様化といった‘新しい風’をつかみ都市をさらに発展させていくことが求められている。</p> <p>都市の魅力とは何か、来訪者にとっての魅力とは何か、それは地域住民とのふれあい、具体的には観光ボランティアとのふれあい、住民との偶然の出会い、旅先で感じるおもてなしの心などを挙げられるが、その地域住民との「交流」そのものである。</p> <p>一方、住民にとっては活躍できるまち、住み続けたいと思える利便性や社会福祉的なサービスの充実が挙げられる。それらの複合的な魅力がひとを引きつけることになり、地域コミュニティのつながりが持続可能な魅力をつくりあげる。</p> <p>今回の会議では、「都市の魅力」、「ひとつがつなぐ」、「地方創生」にかかわる多様な視点を念頭に、「新しい風をつかむまちづくり」の方向性について議論を深める会議とする。</p> <p>基調講演</p> <p>東京大学史料編纂所教授 山本博文氏</p> <p>多様性のある江戸時代の都市</p> <p>江戸時代の町の特徴は、江戸に象徴される都市の巨大化と城下町・宿場町・門前町・港町など多様な町の発展にある。特に諸国の城下町の発展が柱となり、江戸・京都・大阪の三都を支え、大都市の一人勝ちにならない構造を作っていた。参勤交代は、街道と宿場町の発展をもたらし、繁栄に寄与したように、全国の多様な性格を持つ町が相互に影響し合っ</p> |

発展した時代であり、町の発展、人の移動とともに文化や情報も先進的な大都市から地方都市にもたらされ、現在の日本のまちづくりの原型を作っていた。

主報告

沖縄県那覇市 城間幹子市長

ひとつながまち

- 新しい風をつかむまちづくり -

那覇市の課題のひとつに、中心市街地は観光地化され県内経済は順調に推移しているが、地元住民の足が遠のいていることから、観光客だけでなく、地元市民も楽しめる中心市街地とする取り組みを進めている。

平成29年10月から営業している「のうれんプラザ」では、ひとつものが行き交い、マチグラー文化を継承する賑わい豊かな街をコンセプトに再開発に取り組んでいる。

また、行政と市民・企業・NPO団体などとの協働によるまちづくりがより一層求められており、子育て支援では食事や学習支援を行うための居場所づくりや中学校区への寄添支援員の配置、要保護支援、放課後児童クラブ保育料の減免など様々な施策を展開している。

また、健康づくりも同様で、新たなコミュニティづくりとして、「小学校区まちづくり協議会」の設立支援を行い、積極的な活動をされる方には、「那覇市協働大使」として委嘱をしている。これからはアジアに開かれた市として、国内外から優れたひとつものが集い、新しい風をつかみ万国津梁のまちを目指す。

一般報告

首都大学東京大学院人文科学研究科准教授

山下祐介氏

人口減少社会の実像と都市自治体の役割

- 人口とインフラの適正な持続的配置はいかに可能か? -

人口減少を食い止めるには、人口減=財政難でも可能な持続的なインフラ・サービスの維持を実現させることにある。そもそも、人口減少はなにが原因であると捉えるのが正しいのだろうか。どこにいても安心して暮らせる上では、地域間の切磋琢磨となるが、高度経済成長期に、選択と集中が起きてしまい、都市部と地方部の生活への不安の悪循環が心理的な効果となり人口減少が止まらなくなったと考える。

地方では、特に若い人の不安を解消させるには、インフラの安定的な確保が重要で、適正な財の配分を地方へもたらし、全体を調整することができるかどうか鍵となる。

| | | |
|---------------|----------------------------------|--|
| <p>11月10日</p> | <p>第79回 全国都市問題会議 二日目</p> | <p>インフラをみなで維持し、提供し、活用して人の流れを正常化し、安定的に維持することが人口減少社会に向き合う最大の課題である。</p> <p>一般報告 北海道釧路市 蛭名大地市長 自然と都市が融合し共生が地域の価値を高めるまちづくり</p> <p>1 地方分権と地方自治 (1) 地方分権改革の変遷 ・ 第一次地方分権改革 ・ 三位一体改革 ・ 第二次地方分権 (2) 自主・自立の地方自治 ・ 地方都市の関係性 ・ 地方財政の分離</p> <p>2 自然と都市が融合し共生が地域の価値を高めるまちづくり (1) 世界一の観光地づくり ・ 日本版DMOの確立 ・ 観光資源の磨き上げ ・ ストレスフリーの環境整備 ・ 海外への情報発信 (2) 長期滞在の推進 ・ 発想の転換で活かす地域資源 ・ 民間主体のビジネス化 (3) 入湯税超過課税の活用 ・ 導入までの経過 ・ 使途と運用</p> <p>3 将来を見通したまちづくり 「後の世の春をたのみて植えおきし 人の心の桜をぞ見る」</p> <p>パネルディスカッション 「テーマ」 ひとつがたなく都市の魅力と地域の創生戦略 - 新しい風をつかむまちづくり - コーディネーター 早稲田大学理工学術院教授 後藤春彦氏</p> <p>パネリスト</p> |
|---------------|----------------------------------|--|

株式会社能作代表取締役社長 能作克治氏
まちひと感動のデザイン研究所代表 藤田とし子氏
沖縄文化芸術振興アドバイザー 平田大一氏
福井県勝山市 山岸正裕市長
静岡県島田市 染谷絹代市長

- ・産業観光による地方創生
 - ・伝統産業の復活
 - ・工場見学、体験工房、観光情報、地元食材提供
 - ・デザインセンター、工芸センターの産業観光
 - ・共感で響きあうまちづくり
 - ・まちづくりプラットフォーム
 - ・市民が活躍できる舞台をつくる
 - ・若者世代の活躍とつながり
 - ・地域マップづくり、レンタサイクル事業、食べ飲み歩き事業
 - ・市民起点のまちづくり事業を共感の核とする
 - ・サードプレイスづくり
 - ・エコミュージアム事業
- などを中心としたパネルディスカッション。

成果及び所感

昭和2年に始まった都市問題会議は、当時の大阪市長の声かけにより、全国の市町村の代表が一同に集まってお互いのコミュニケーションを図ることが重要であると始まったとのこと。

現在では79回を重ね、伝統的な取り組みには全国から実に2,200名を超す自治体の首長を始め、議長や議員、行政関係者が集い交流を深めた。

長い歴史の中で、意外にも沖縄での開催は初めてとのこと。現在の近隣諸外国との微妙な緊張状態の中、多くの仲間が一堂に集い、未来の日本を語り、共に時間と情報を共有する貴重な機会である。

特に那覇市の歴史的な変遷から、現在のアジアと日本をつなぐ玄関口ともなるまちづくりには、外国人観光客の誘致を目指す我が市においては、とても勉強になる要素が多い。

また、各地の地域づくりの事例においては、その地域の特徴や強みを活かしたまちづくりの展開があり、改めて飯能市の強みをブラッシュアップして取り組む必要性を感じる。

例えば、観光において、エコツーリズムのブラッシュアップ

を行い、観光目的のお客様をもてなすことで、地域住民の生きがい・やりがいにつなげることが考えられる。

また、少子高齢化に伴う地域福祉に関しても、地域住民が協力しあって取り組むことが、地域のコミュニティの再生につながり、住民同士の顔や名前が分かる関係の構築が期待できる。

それにより、お互いに困ったことがあれば、お互い様の精神で支え合いのできる地域づくりも期待できる。

いずれにしても、今回の全国都市問題会議に参加し、全国から集まった地域の首長や議員、行政関係の方々との交流や情報交換をすることができ、大変有意義な視察となった。

参加者：野田直人(議長)、中元太(副議長)、砂長恒夫、
加藤由貴夫、栗原義幸、野口和彦

| | | |
|-----------|--------|---|
| 11月15～17日 | 先進都市視察 | <p>日時:平成29年11月15日(水) 14:00～15:30</p> <p>場所:NPO法人「気張る！ふるさと丹後町」 (京都府京丹後市)</p> <p>内容: このNPO法人「気張る！ふるさと丹後町」は、丹後町のまちづくりを住民主体で持続可能かつ計画的に進めるために、平成20年12月17日、丹後町地域まちづくり協議会が京丹後市長に提言し、設立された。その法人の活動の中で、公共交通空白地有償運送「ささえ合い交通」の主体運行を視察した。</p> <p>概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 根拠法律:道路運送法第78条第2号に基づく公共交通空白地有償運送で地元の住民ドライバーがマイカーを使って運行する 2. 配車方法:スマートフォンでUber(ウーバー)のアプリを使って即時配車 3. 運行主体:NPO法人「気張る！ふるさと丹後町」 4. 運行区域:乗車は丹後町のみ、降車は京丹後市全域 5. 料金:最初の1.5kmまで、480円、以後120円/kmを加算(概ねタクシー料金の半額) 6. 運行時間:午前8時～午後8時(365日、運休日なし) 7. 利用者:丹後町民、観光客等(国内、国外含む) <p>であり、「ささえ合い交通」が目指すところは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の移動をサポート 高齢者で車を持たない方々の買い物や通院の移動手段を確保 ・観光客の移動をサポート 観光客の自由な地域内交通を確保 <p>で、地域住民(特に高齢者)の新たなコミュニケーションを生み、楽しさ、生きがい、国際交流などにつながる可能性、地域住民の助け合いの精神をさらに育むであった。</p> <p>ドライバーの現状は、平均年齢63歳(43歳～71歳)、75歳までの年齢制限を設定、19名(男性15名、女性4名)であった。</p> <p>今後の課題として、丹後町外への往復運行の実現、運賃の高さ感の緩和などがあり、更に協議を続けることであった。</p> |
|-----------|--------|---|

日時:平成29年11月16日(木)

10:30～12:00

場所:鳥取県智頭町役場

(鳥取県智頭町)

内容:

智頭町は、鳥取県の東南に位置し、岡山県に接する県境地帯で、町面積の93%を山林が占めている。町木は杉であり、飯能市の山間地域のような所である。

この度は、自治体初の「智頭町疎開保険」の仕組みについて視察をした。

概要

1. 名称:智頭町疎開保険
2. 募集主体:智頭町役場企画課
3. 募集対象:日本に在住の方
4. 募集人員:先着1,000名
5. 疎開受入条件:地震・噴火・津波等を原因とする災害救助法が発令された地域の加入者
6. 疎開補助:智頭町内および近隣町村提携施設の宿泊場所の確保・提供 1泊3食7日分
7. 保険代金:1人コース 10,000円/年
ファミリー2人 15,000円/年
ファミリー3～4人コース 20,000円/年
8. 保険期間:加入日から1年間

であり、その他特典として、

特典1:智頭町の米や野菜、工芸品などの特産品を届ける

特典2:智頭町にて森林セラピー・民泊の利用が半額になる

があり、地域の特産物を町が買い上げ、地域活性化の一途を担っている。

智頭町のキャッチフレーズは「みどりの風が吹く疎開のまち」であり、近年低迷の続く「林」と「農」に光をあて、訪れる人がほっとできる癒やしのまちとして都会のストレス社会からの疎開の受入を行っている。

日時:平成29年11月16日(木)

14:00～15:30

場所:森のようちえん「まるたんぼう」

(鳥取県智頭町)

内容:森のようちえん「まるたんぼう」は、鳥取県智頭町

の豊かな自然を舞台にこれまでにない保育を行っている。子どもの自主性を尊重した保育が特徴で、その理念に共感した子育て世代の移住により、山里に新しい風が吹き込んでいる。

教育方針の主なものは、

1. 自然の中でのびのびと＝智頭の町がそっくりそのまま園舎
 - ・智頭の豊かな自然環境
 - ・町内14箇所のフィールドを自由に選択
2. 楽しく仲良くたくましく＝人との関わりや知恵を学ぶ
3. その子のペースでゆっくりと＝信じて待つ保育
 - ・個性(感性)や気持ちを大切に
 - ・育ちの芽を信じて待つことを大切に
 - ・親、保護者も共に育ちあう

このような「森のようちえん」はデンマークが発祥の地であり、現在日本の各地で、約110箇所ですでに運営されており、飯能市においても、森林、山間地を活かすためにも検討すべき課題であると思われる。

参加者

加藤由貴夫、平沼 弘